

定 格

〈一般仕様〉

周波数範囲	: 144.00MHz ~ 146.00MHz
電波型式	: F 3 (FM)
使用温度範囲	: -20℃ ~ +50℃
空中線インピーダンス	: 50 Ω
電源電圧	: 5.8V ~ 10.0V (定格電圧7.2V)
消費電流	: 受信待受時 28mA 以下 送信時 (Hi) 600mA 以下 (Low) 約300mA
寸 法	: 幅57(66)×高さ120(130)×厚さ28(32)mm () 内は突起物を含む最大寸法
重 量	: 約290 g (アンテナ, マンガン電池を含む)

〈送信部〉

送信出力	: Hi 1.0W, Low 約150mW
変調方式	: リアクトランス変調
最大周波数偏移	: ±5kHz
不要輻射強度	: -60dB以下
内蔵マイクロホン	: コンデンサータイプ

〈受信部〉

受信方式	: ダブルスーパーヘテロダイン
中間周波数	: 第1IF 16.3MHz, 第2IF 455kHz
受信感度	: 12dB SINAD -6dBμ(0.5μV) 以下 0dBμ(1μV) 入力時の S/N 30dB以上
スケルチ感度	: 0.5μV以下
選択度	: 12kHz以上/-6dB, 28kHz以下/-40dB
低周波出力	: 250mW 以上 (8 Ω 負荷, 歪率 10%)

「測定法はJAIAで定めた測定法による」

■ご注意 定格は技術開発に伴い変更する場合があります。

■トリオ株式会社

本 社 東京都渋谷区渋谷2の17の5シオノギ渋谷ビル 〒150

お買い上げ後のサービスのご相談は、サービス窓口、または購入店をご利用ください。

その他商品に関するお問合わせは、お客様相談室をご利用ください。

電話 (03)(486)5515

©45505 PRINTED IN JAPAN

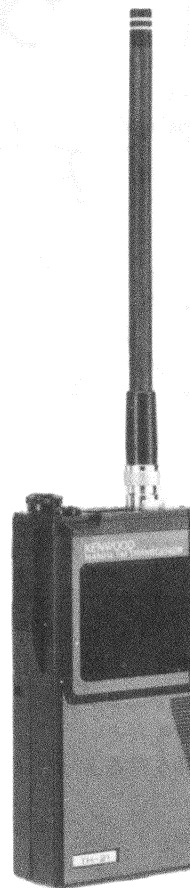
B 50-4122-00(G) ①

KENWOOD

TH-21

144MHz FM TRANSCEIVER

取扱説明書



お願い

お買い上げいただきまして誠にありがとうございました。
お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもと
に生産されておりますが、万一運搬中の事故などにとまな
い、ご不審な個所、または破損などのトラブルがありまし
たら、お早目にお買い上げいただきました販売店または保
証書に記載されているサービス窓口にお申しつけください
ますようお願い申し上げます。

付属品

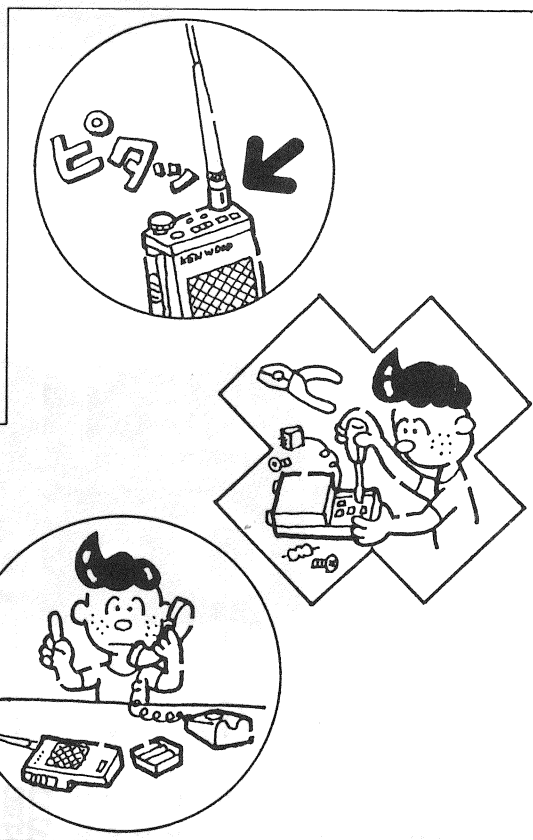
下記のものが付属されておりますので、お確かめください。

- ヘリカルアンテナ..... | 本
- 電池ケース..... | 個
- 取扱い説明書..... | 部
- 保証書..... | 部
- ハンドストラップ..... | 本

梱包材（ダンボール箱）は本機を移動して使用するときや、アフタサービスのご依頼時に使用しますと、大切な機器を保護するのに便利です。ぜひ保管しておくことをお奨めします。

ご使用の前に

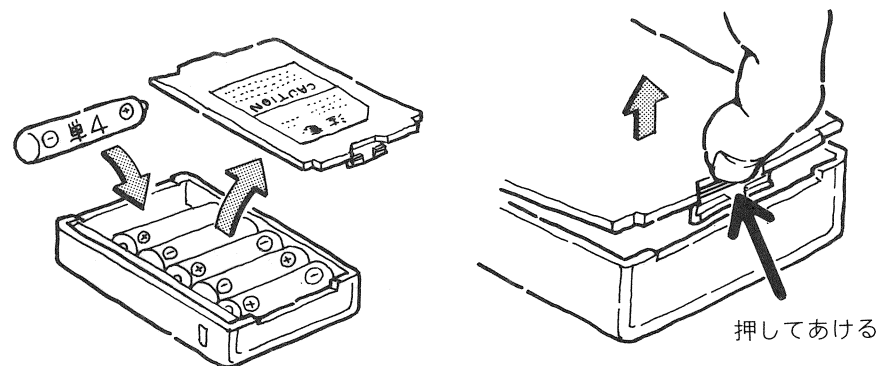
- 付属のヘリカルアンテナを完全に装着した状態でお使いください。
- 内部のコアやトリマーは調整済みですから手を触れないでください。
- ハムバンドの近くには多くの業務用無線局の周波数が運用されていますので、移動の際は十分注意してください。
- 万一、トラブルが生じた場合は、購入店またはトリオサービスセンターにご相談ください。



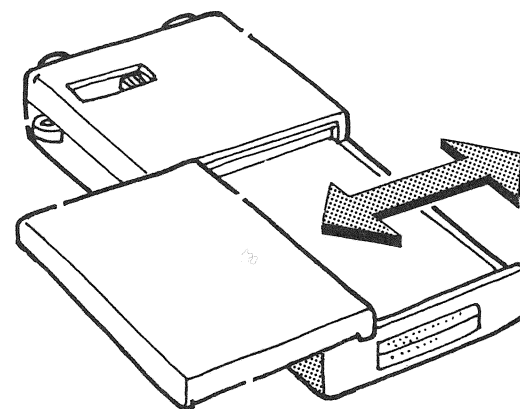
ご使用にあたって

1. 電池ケースの装着

- 付属の電池ケースに単4型電池を6本入れます。単4型電池はマンガン電池、またはアルカリマンガン電池をご使用ください。電池の⊕、⊖を正しい方向に入れてください。（ご使用の電池は高性能タイプをお奨めします）



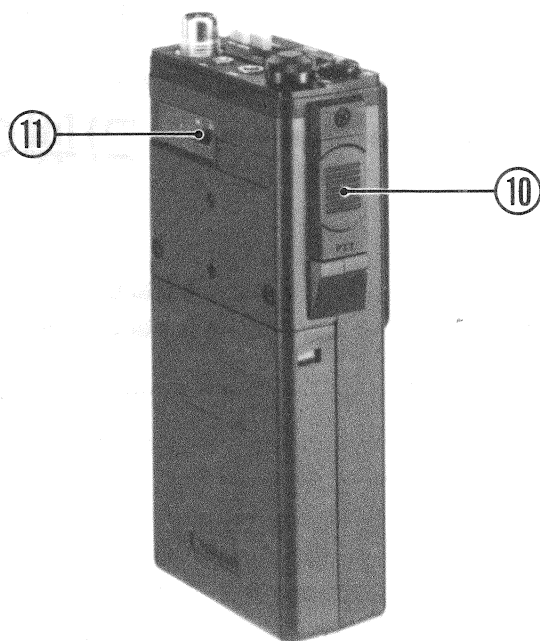
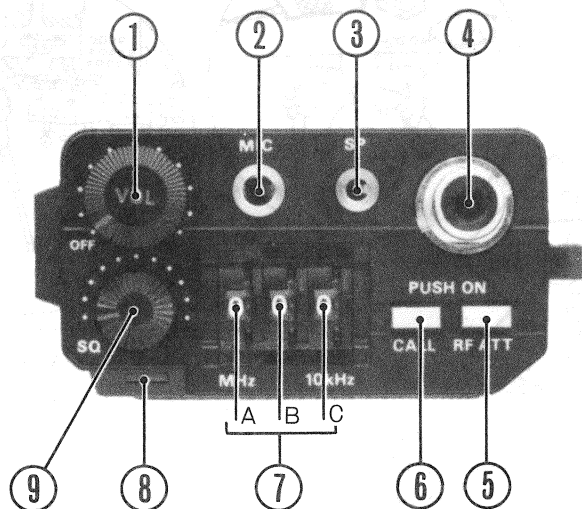
- 電池ケースを本体に装着するには、本体と電池ケースの両方の溝を合わせ、右にスライドさせます。はずすときは左にスライドさせてください。



2. 単4型電池(新品)による運用時間

- 1 分間送信、3 分間受信の繰り返しによる運用時間はマンガン電池の場合約40分、アルカリマンガン電池の場合は約90分を目やすにしてください。
- 近距離で交信するときは [Low] ポジションにすると電池の消耗が少なくなり運用時間を伸ばすことができます。電池が消耗し送信の [ON AIR] ランプが暗くなってきましたら新しい電池に交換してください。

各部の名称と機能



①VOLツマミ 音量ツマミ／電源スイッチ

- 電源のON-OFFと音量調節ツマミが兼用となっています。
- 時計方向にまわすと電源が入ります。
- さらにまわすと音が大きくなります。

②MIC (マイク) 端子

- SP端子と組合せて、別売オプションのスピーカー・マイクロホン (SMC-30)、VOX付ヘッドセット (HMC-1) を接続するときに使います。他の使用は故障の原因になりますので、ご使用しないで下さい。
- プラグを差し込むと内蔵のマイクは動きません。

③SP (スピーカー) 端子

- 外部スピーカーまたはイヤホン用端子です。
- またMIC端子と組合せてSMC-30やHMC-1が使用できます。
- プラグを差し込むと内蔵のスピーカーは動きません。

④アンテナコネクター

- 付属のヘリカルアンテナを差し込み、右にまわして固定します。

⑤RFアッテネータースイッチ

- 入力信号を減衰させます。
- 特に大型の外部アンテナ等を使用している時に強力な隣接局によって妨害を受けたときなどに使います。

⑥CALL スイッチ

- このスイッチを押し、ONにするとサムホールスイッチに関係なく運用周波数は145.00 MHzになります。

⑦周波数設定スイッチ (サムホイールスイッチ)

- A …… 1 MHz の設定をします。
- B …… 100 kHz の設定をします。
- C …… 10 kHz の設定をします。

⑧ON AIR インジケーター

- 送信時に点灯します。
- 送信中に暗くなったり、点灯しなくなったときは電池が無くなったことを示しています。

⑨SQ (スケルチ) ツマミ

- 受信状態で無信号時の“ザー”という雑音を消すために使います。通常は時計方向 (右回り) にまわして、無信号のノイズが消える位置にセットします。

⑩PTT スイッチ

- 送信するときに押して、お話し下さい。
- マイクロホンはスピーカーと同じ位置に内蔵されています。

⑪Hi / Low スイッチ

- 送信出力を切替えるスイッチです。
- Hi ポジションで1 W、Low ポジションで約150mW となります。

交信のしかた

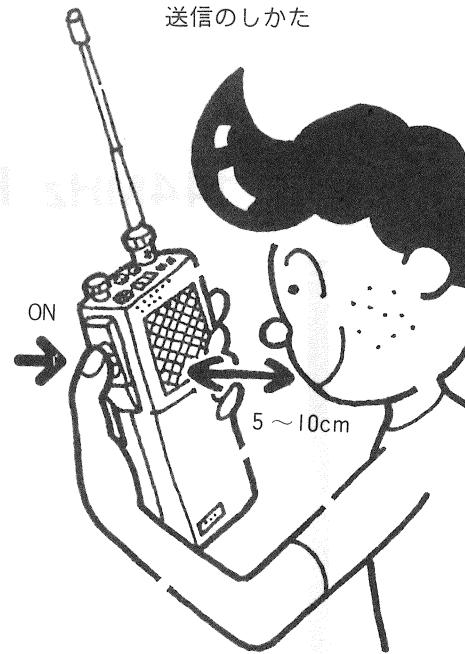
1. 受信

- VOLツマミを右にまわして ONにします。
- SQ ツマミを左いっぱい回します。
- VOL ツマミをまわし、ノイズの大きさを適当なレベルにします。
- サムホイールスイッチを設定して、希望の周波数に合せます。
- SQ ツマミを、適当なレベルに調節します。

2. 送信

- サムホイールスイッチを設定して、希望のチャンネルにします。
- 他局が通話していないことを確認します。
- PTT スwitchを押して、スピーカー・マイクの部分に向かって話します。このとき、ON AIR インジケータが点灯します。

注. スピーカー・マイクと口との間隔は 5 ～ 10cm が適当です。



運用にあたってのご注意

電波を発射する前に

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局の周波数があり運用されています。これらの無線局の至近距離で電波を発射するとアマチュア局が電波法令を満足していても、不測の電波障害が発生することがあり、移動運用の際にはじゅうぶんに注意ください。とくにつぎの場所での運用は原則として行なわず必要な場合は管理者の承認を得るようにしましょう。

民間航空機内、空港敷地内、新幹線車輦内、業務用無線局及び中継局周辺等。

参考 無線局運用規則 第 9 章 アマチュア局の運用(発射の制限等)

第258条

アマチュア局は自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。

以下略

アクセサリ

TH-21 をより有効にご使用いただくためにアクセサリが用意されています。

- ① 充電可能な Ni-Cd (ニッカド) 電池/パック PB-21
- ② PB-21 を充電する専用の ACチャージャー BC-3
- ③ マンガン電池ケース BT-2
- ④ 長時間の運用に便利な 単2型マンガン電池ケース EB-2
- ⑤ カーバッテリー(12V)で運用できる DC-DC電源 DC-21
- ⑥ 一体型にした外部用スピーカー・マイクロホン SMC-30
- ⑦ VOX付ヘッドセット HMC-1
- ⑧ TH-21 とマッチしたソフトケース SC-8
- ⑨ イヤホン(プチホンタイプ) HS-8
- ⑩ 変換プラグ AJ-3

申請書の書き方

本機により、アマチュア無線局を申請する場合は、市販の申請書に下記事項をまちがいなく記載の上、申請してください。

また、本機は、JARL 登録機種ですから、保証額に登録番号 T 86 を記載することにより、送信機系統図を省略することができます。

無線局事項書

21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式

周波数帯	空中線電力 (W)	電波の型式
144M	10	F3

22工事設計	第 1 送信機	第 2 送信機	第 3 送信機
発射可能な電波の型式、周波数の範囲	F3 144MHz帯		
変調の方式	リアクトランス変調		
総名称個数	2SC1947×1	×	
電圧・入力	7.2 V 3.0 W	V W	
送受信空中線の型式			
その他工事設計	電波法第 3 章に規定する条件に合致している。		

保証願

周波数	空中線電力	電波の型式	機 種	設 定	備 考
144 MHz	10 W	F3			登録機種の登録番号若しくは名称、又は発射可能な電波の型式、周波数の範囲
MHz	W				第 1 送信機
MHz	W				第 2 送信機
MHz	W				第 3 送信機
MHz	W				第 4 送信機
MHz	W				第 5 送信機
MHz	W				第 6 送信機
MHz	W				
MHz	W				
MHz	W				
				添 付 図 面	☐ 送信機系統図(附属装置の諸元の記載を含む)
				安全施設及びその他の工事設計	電波法第 3 章に定められた条件に適合している。

無線局事項書の「21」欄及び保証願書の希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式のうち『空中線電力』については下記の分類にしたがって記入してください。空中線電力10W以下『10W』